

土木学会水工学委員会「令和 8 年 8 月千葉豪雨災害調査団」の結成について

2026/8/31

作成:大槻(山梨大学 水害対策小委員会 関東地区幹事)

1. 調査の目的

令和 8 年 8 月 13 日～14 日に千葉県で発生した記録的豪雨について, 降雨特性, 流出・河川水位, 内外水氾濫, 地形条件, 道路冠水・交通障害等を総合的に調査し, 都市流域および都市・農村混在流域における水害発生過程と被害特性を明らかにする. 先行的な調査, 先遣調査により重点調査地域・課題を絞り込んだ上で, 本格調査を実施する.

2. 重点調査地域(案)

区分	対象地域	主な着眼点
都市流域	真間川流域(市川市等)	内水氾濫, 都市排水, 道路冠水, 低地・谷津地形, 交通ネットワークへの影響, 都市インフラ被害.
都市・農村混在流域	印旛沼流域流入河川, 小中川等(大網白里市)	河川流出, 印旛沼水位, 河川氾濫と内水氾濫の複合, 土地利用・地形との関係
必要に応じ追加	千葉市等	外水氾濫(村田川), 道路ネットワーク, 都市内水の特徴

3. 調査団組織(素案)

役割・分野	候補者	主な担当
団長	田中規夫(埼玉大)	調査全体の統括, 調査方針
幹事長(事務局)	大槻順朗(山梨大)	調査企画, 現地調査, 氾濫・浸水実態解明, 関係機関調整
統括, 連携	清水義彦(土木研究所 ICHARM)	調査全体の統括, 調査方針, 応用生態工学会との連携
降雨・気象	小槻峻司(千葉大)	豪雨の気象・降雨特性解析
降雨・気象	金子凌(千葉大)	降雨解析, データ処理, 現地調査
水文・流出	橋本雅和(関西大)	流出特性, 河川水位・流量解析
氾濫	二瓶泰雄(東京理科大)	流域の氾濫機構, 浸水実態解明
氾濫	柏田仁(東京理科大)	地域情報抽出, 浸水実態解明
氾濫	戸村健太郎(アジア航測)	氾濫域の広域推定等

氾濫	富田邦裕(NiXJAPAN)	現地調査
交通道路ネットワーク	(候補者調整中)	
地形・河川地形	巖島怜(九州大)	谷津・低地等の地形条件と氾濫との関係
印旛沼・流域環境	西廣淳(国立環境研)	地域環境特性とNbSの適用可能性評価
農業被害	川越清樹(福島大)	浸水農地の被害の現状と分析
都市システム被害	田代喬(名古屋大)	都市ガスの途絶被害調査
都市システム被害	中野晋(徳島大)	保育園の水害対策, 避難行動
自動車被害	竹林洋史(京都大)	自動車の浸水要因の推定
土砂流出	高野和成(PCKK)	土砂流出が氾濫に与えた影響

※調査団メンバーは結成後広く公募する

4. 調査の柱

- ① 降雨特性の評価分析: 豪雨の時空間分布, 要因分析
- ② 流出・治水システムの評価: 河川・排水(排水機場, 下水幹線位置, 農業用水の取排水系統)・河口潮位・貯留施設(地上・地下)を含む流出プロセスと既存対策の効果・限界
- ③ 氾濫・浸水実態調査: 氾濫・浸水実態調査: 痕跡浸水深, 浸水範囲, 浸水時の流向, 内外水判別, 浸水の時間変化の追跡. 内水 HM 等の既存リスク情報との比較
- ④ 地形との関係: 谷津, 低平地, 旧河道等と浸水集中箇所との対応. 土地開発・利用との関連. 道路等の横断構造物による流路形成・堰上げ・貯留
- ⑤ 道路・交通・人的被害, 農業・都市機能への影響: 道路冠水, 通行止め, ネットワーク分断, 浸水被害・脆弱性評価
- ⑥ 統合解析: JMA・千葉県観測データ, 国際航業の浸水域推定, ウェザーニュースの被害報告, 現地調査結果等を統合し, 水害発生過程を時空間的に再構成. 谷津・農地・ため池等の流域貯留機能と GI・流域治水への接続.

5. 当面の進め方

・先遣調査(実施済): 調査団結成前の現地確認を先遣調査として位置づける. 真間川流域・印旛沼流域等を中心として, 痕跡浸水深, 被災状況, 現地状況を記録する.

・調査団結成(8月下旬): 田中規夫教授(埼玉大学)を団長として体制案を整理し, 水工学委員長(田中先生)・幹事長(戸田先生)へ結成意向を報告する. 水工学委員会・土木学会での必要な手続きを経て正式結成し, 必要に応じて団員を追加・公募する. 併せて調査費の確保, 自治体・河川管理者との調整を進める.

・**本格調査**(9 月初旬～): 千葉県, 市川市, 佐倉市, 千葉市等との現地打合せを含む調査を実施する。行政側から見た被災状況・課題を把握するとともに, 現地確認を通じて重点調査課題を共有し, その後の調査計画・役割分担を具体化する。国際航業・ウェザーニューズ等の広域浸水情報も活用して調査地点を絞り込む。(9/2 に千葉県との現地視察を実施予定)

・**速報会・成果公表**: 調査した内容のアウトリーチを行う。速報会は年内, 報告会は河川災害シンポジウム(翌年 4 月)となると見込まれる。